

2016年06月26日(日) 劇団からっかぜ公開講座 『入門編・・・演劇ってな～だ』

劇団からっかぜ公開講座メモ

2016・06・26(日) By 平井新

「入門編・・・演劇ってな～んだ!？」 講師:西田豊子 氏

場所:劇団からっかぜアトリエ 時間:10:00～16:20 参加人数:27名(実質参加 25名)

新君より

講師の西田氏のお話しは、非常に説得力があり、聞いている限りは良く分かり納得させられるものであるが、メモを取ってみると、言葉の飛躍、論理の展開の途中省略が多く上手くメモが取れないことが多かった。これは、西田氏が教師(教育者)と言うより演出家であるためと思われる。演出家の多くがそうであるように、論理展開よりも相手に思いを伝えるということを重要視しているということなのだろう。そのため、下記メモは新君の印象、推察が多く入っていることをお断りしておく

講師挨拶

私は、演出家と言うより劇作家です。演劇教室をやっていますので、その方向で今日はやります。ドラマツルギー(作劇術)という世界共通の便利な言葉があり、その基礎論理の美味しいところ取りで行います。配布した資料(当然のことが当たり前)に基づいてやりますが全てではありません。

- ・エネルギーを飛ばす
全員立って輪になります
- ・一人が隣の人に向かって、手を打ちます。手を打たれた人は同じく隣の人に向かって手を打ちます。
- ・どんどん早くしていきます
- ・逆回しで同じことを行います
- ・任意に(適当に)逆回しを入れます
- ・隣の人ではなく、自分が選んだ人に向かって、ジャンプ等アクションを加えて送ります(目的意識をもつて)

注)・・・は、講師のコメントです

遠くえ飛ばそうとするとエネルギーがいります

演劇は舞台からエネルギーを客に与え、客からエネルギー(いぶき)をもらうものです

・送るとき声(ハイ)を付けて送ります(言葉と行動を一緒に)

・もらったほうは、もらったと言う表示をする

エネルギーを飛ばすことはとても大切なことです

・シアターゲーム。エクササイズ(いろいろな意味で使われます) *色々な意味でベースになります

***二人でペアをつくります**

・ナイフ&フォーク・・・一人がナイフ、もう一人がフォークのポーズを取ります。心の中でナイフと思ったらナイフのポーズ、相手はナイフを先にやられたらフォークのポーズを取ります
ハイと言う声で同時にやります。 何回かやります。

形で伝えるのが大切

・丸と三角

*** (芸術は) 答えは一つではない ***

*** 今のところ相手に伝わればよい ***

・下駄とスリッパ

*** 身体表現で相手に伝わればよい ***

*** 瞬時に身体変化する。エネルギーが必要 ***

・ピッチャーとキャッチャー

・子猫とドラえもん

・アジサイの葉っぱとカタツムリ

*** とにかく相手にわかってもらう ***

・電車の仲、ラッシュ時に立っている

一人は、ある行動(アクション)をついやってしまう。もう一人は、それを見てしまった刑事

→その途端激しい揺れが→わずかに目を合わせて互いに一言→何事もなかった様に元に戻る

講師によるシチュエーション

1. スリの人は、しばらくスリをやめていたが、何らかの理由で再び始めた、ちょうど隣にカモが来た
→アクション→ポーズ→再びゆれる。支えあう二人→一言ずつ言葉を交わし元に戻る→ポーズ
2. スリはお財布を取ってしまう、それをはっきり見る刑事→ポーズ→ひっそりと言葉を交わす二人
(言い訳等)

*** なんだかんだで言葉が生まれる。すでに劇作家になっている ***

→もうひと揺れきて、駅でドアが開く→ポーズ→スリ降りる、刑事追いかける→ポーズ→動き出す、言葉もやり取りする

*** それぞれに展開したと思う、それを書けば芝居になる ***

体は言語を持っている(体をテーマにして役づくりのエクササイズ)

・歩く(体のリラックスと活性化)

ランダムにリラックスして歩く・・・歩きたいんだという思い、気持ち良い空間を探して、自分のリズムで

↓

目を見張って歩く・・・自分の仲での変化を感じる

↓

目を細めて歩く・・・自分は何を考え歩いているのか？この状況はどんな時か？人生のどんな状況？

↓

胸を開いて歩く・・・全然違う雰囲気を感じて、目的は？どんな状況？

↓

猫背の状態で行く・・・これって何だろう？どこに向かって、何を目的に歩いているのだろうか？

↓

そのまま、チラッと周りを見つめる・・・この不思議な状況は？冗談？

↓

元に戻って行く

↓

顔を思い切って開いて行く・・・これはどういう時だ？自分の中から湧いてくる

↓
チラッと周りを見してみる・・・さっきと全然違う集団だぞ、歩くリズムも違ってくる

↓
顔を緊張させて歩く、チラッと周りを見してみる・・・違った集団、どういう時？何者？なぜ？

↓
普通に歩く

↓
呼吸を速めて歩く、チラッと周りを見してみる・・・違った集団、全然違った物を感じる、何だこれは？

↓
深い呼吸をゆっくりしながら・・・場所が変わってくる、イメージも変わってくる

↓
歯をむき出して歩く・・・これだけで、全身が変わる、自分の中に起きた変化を感じる

↓
口を一字に結んで歩く、チラッと周りを見る・・・この状態の気分は？どこへ、何のために？

↓
腕を組んで歩く・・・リズムの変化を感じる、私は今どこに？時間、場所？自分のイメージでも他人のイメージでもよい、変化を感じてみる

↓
腕を上げて歩く・・・何だこれは？色んなことがある、動きの中から生まれるイメージは？

↓
大股で、外またで歩く、チラッと周りを見る・・・全く違う気分を感じて

↓
小股、内股で歩く・・・肩まですぼめる人もいる、歩き方を変えるだけで違った人になれる

↓
早く歩く・・・どうして、なぜを体に聞いてみる

↓
体がとても重い、周りをチラッと見ながら歩く・・・誰が？なぜ？どこに向かって？体に聞いてみる

↓
軽やかに歩く・・・空気が変わる

↓
行きたいところ、目的がありそこに向かって歩く

↓
目的なし、迷いながら曲線的に歩く

↓
【ミックス】

↓
目を見開いて、体が重い、速足・・・新しい発見がある

↓
目を細め、軽やかに、迷いながら・・・何だろうこれは？

↓
止まる

・振り返ってみて、自分の中の発見を言ってみる

目を見開いて歩く→恐怖、発見、楽しくなった(良いことがある)、怒り、探している、何処だ

色々なことを体がメッセージを送ってくれる

頭ではなく、体が記憶している

目を細めて→迷っている、眠い

胸を開いて→偉そう

猫背にしたとき→失敗、月曜の朝

顔を開いて→

顔を緊張→周りの人が信頼できない

呼吸を早く→間に合わない

呼吸ゆっくり→

歯をむき出し→

口を閉じて→

体で感じていたことを言葉にしてみる

体で感じたことは多種多様、それを言葉にする→俳優術

腕を組んで→問題あり、感心している、新しいもの、夢を考えている

その人のバックグラウンド全部をかけたものが出てくる

腕を上げたとき→お金が落ちてきた、神様、森の中、大観衆の中の一人(歓喜)

やることによって発見している

大股→巨人

小股→暗いところ、見つけた人が消えた

観客(見ている人)の脳波が同期する→ミラー効果

体が重い→二日酔い、年寄りになった、ケガをした

軽やか→美人になった気分

イメージは人を動かす

ガンガン歩く→道を究める

イメージ、感じたことは経験によって違ってくる

迷いながら歩く→ウインドショッピング

目を見開き、体は重く速足→

・この中で気に入った歩き方はあるか？

心の中で決めて→どういう声を出すのか？ 独り言を言うとするどんな言い方をするか？ →やってみる

5分休憩(11:20)

・戯曲ってなんだ

・二人でペアをつくる。お互いに相手に対して手紙を書く。手紙にはどうしても何かが欲しいお願いを書く。

例) イブがファッションに目覚めて、神様にイチジクの葉以外の衣装を下さい。なぜならば気温が・・・

(その理由を書く)

例) 妻へ、どうかご飯のお代わりを許してください。なぜならば・・・

例) 平家の落ち武者様、どうか耳を返してください……

荒唐無稽でも必ず理由が必要です

各々。手紙を書く

- ・それぞれの手紙を相手に渡します。
- ・受け取った側は、手紙をしっかりと読みます。
- ・手紙のお願いが絶対にできない理由を述べた返事を書きます。
- ＊戯曲の極意として、要求を聞いてしまうと戯曲は成り立たないし、観客も納得しません＊
- ・余力があれば、その人らしい根拠、言い回しがあるとよい
- ・返事を相手に渡します
- ・NOの返事に対して、いや、それでもと手紙を書き相手に渡します
- ・再びNOの返事を書きます
- ・それでもと手紙を書きます

：

- ＊3回ぐらい繰り返すと、起承転結の起承転ぐらいまで行く＊
- ＊返事が来るとワクワクする。ドラマは、ギャップから生まれる。違いから生まれる＊

・ドラマツルギーの基本

誰か(主人公＝プロダニコス)が何かを望む(目的、理由)→アクション(行動)を起こす(ドラマの始まり)
→相手(対立者＝アンタゴニスト)に働きかける→NO(試練が強くなっていく。簡単にOKだと嘘っぽい)本当の意味でのNO→さらに成長(葛藤は人を強くしていく)

昼休み(12:00～12:45)

・発表

3組が手紙のやり取りを発表 内容略

・このエクササイズの役立つところは、声が聞こえてくるのが良いことです。登場人物の声が聞こえてくると生き生きとしてきます。手紙によって相手の声が聞こえてくる、これが良いことです。誰々から誰々に、来ていることにすることによって、声が聞こえてくる。声が聞こえてくるのが大切なことです。ある人の声が聞こえてくるのが重要です。声が聞こえてくるのがこのエクササイズの要点です。

対立は起きて当然です。みんな違う、だからこそ違い(利害、感情)があることが、両方の違いが変化をもたらします。こういうことが観客にも伝わります。声が伝わる、力強さを観客が感じる事が出来ます

・新聞の見出しから

- ・5人でグループを作ります
- ・各チームに新聞を渡す
- ・新聞には、大きい見出しから小さい見出しがある。また、社会面、家庭面などがある。
その中から面白そうな、気を引かれる、ピンとくるような見出しを選ぶ
- ・紙1枚に見出しを1つ書く(何枚でも、いくつでも)
- ・最初のページから最後のページまで行う
- ・各グループが書きだしたものをランダムに並べる

- ・並べられたものから各グループで気になるものを選ぶ(自分のグループが選んだものに関係なく)
 - *その時代に何が起きているかが新聞には満載されている*
- ・各グループで2~3枚を選ぶ
- ・グループ内で1枚に絞る
- ・それを元にグループで物語(寸劇)をつくる
- ・人物、特に主人公
- ・人物像をつくる・・・何かパワーを秘めていそうな人物を考える
 - 他の人物たち、および配置を考える
- ・どんな葛藤(問題)、解決への目標
- ・プロット(出来事)・・・最初の出来事が重要！！
- *主人公と観客の横っ面を張り飛ばす！？これが出来れば動き出す、エンジンがかかる。
 - 可能な限り魅力的なシーンをつくる*
- ・次の展開又はあらすじを考える

各グループ、1時間で作ってみる(14:00~15:00)

<発表>

- ・第1グループ「見下すことから始めよう」(選んだ見出し)

地方の小さい支社に、新しい支店長が来たが、元からいた社員たちは全員就業時間前に帰るは、朝は就業時間開始ぎりぎりしか出社しないし、支店長の言うことを聞かない。支店長は何とか社員たちとコミュニケーションを取ろうとするが上手くいかない。唯一ヤクルト販売に来るヤクルトお婆さんだけが話し相手である。一週間たっても状況が変わらず、落ち込む支店長にヤクルトお婆さんが「見下すことから始めよう」のタイトルの本を手渡す。

- ・第2グループ「見下すことから始めよう」

家族が夕食をしているところに父親が返ってくるが、父の分の肉はない。話題が子供たちの出来の良さに移るが、父は学生時代スポーツも勉強もダメだった、母にどうしてこんな人と結婚したのかしらと家族から馬鹿にされる父、会社でもコピーばかりやらされて馬鹿にされている。家族の中で唯一馬鹿にしていけないおじいちゃんに励まされて、父は母に切れるが、あっという間に母にやっつけられてしまう。

- ・第3グループ「で、あなたはどこ高？」

夜間高校のクラス。今度の体育祭でクラス対抗400mリレーに出場することになったが、男2人女3人のクラスで女の一人は70歳のお婆あちゃん。残りの4人で出ることになったが、若い男の子は全然やる気がない。みんなで練習をするが、若い男の子は相変わらず走る気がない。ところが体育祭直前、女の内の一人が妊娠していることが分かり、急きょ70歳のお婆あちゃんが走るようになった。当日息も絶え絶えのお婆あちゃんからバトンを受け取った男の子は、必死に走りとうとう一番になった。喜び合うみんな、一人が言う「クラスメイトって良いね！」

- ・第4グループ「ブロッコリーが好きだ」

部長のお弁当には毎日毎日カリフラワーが入っている。部長がカリフラワーが好きだと思った社員がたくさんのカリフラワーをくれる。部長は本当はブロッコリーが好きなのだが、お弁当を作ってくれる娘が間違えてカリフラワーを入れてくれるのである。

部長の心の中の天使と悪魔が現れ、悪魔は娘に本当はブロッコリーが好きだと言えとしきりに勧め、天使は娘がせっかくお父さんのためにカリフラワーを入れてくれているのだから言わないほうが良いと言う。

部長の心は揺れに揺れるのだが、結局娘にはブロッコリーが好きだと言わないことにする。

・第5グループ「ロクロと踊る」

陶芸家が自分の力を示すために展覧会に大きな皿を出品したいと思いロクロで皿を作ろうとしているが、上手くいかない、いら立つ陶芸家。大きな皿を作って展覧会で優勝したいという陶芸家に妻が、あなたが最初に作った作品は小さなものだったけれど心がこもっていた、と諭す。自分の間違いに気づいた陶芸家は、小さな作品からもう一度つくることを決意する。

* 出来上がった作品は、作者が生きていく中で、大切なこと、重要なこと、ヘビー(重く)感じた事等なのです。作品を見て皆さんどう思いましたか？

人と社会、人と世の中のギンギンとした中で、切り取った大切なものを観客がどう思うかが作者にとっての作品なのです*

・資料の説明

<配布資料ー浜松市「劇団からっかぜ公開講座」資料ーを参照しながら読んでください By Sin>

アリストテレス



ローマはギリシャを征服...ギリシャ文化を大切にする



ローマ衰える



キリスト教が教化のためだけの演劇



観客の要求、観客の共感を得る演劇

- ・問題はいつでも解決できるか？
- ・いつもハッピーで終われるか？
- ・上手くいったらハッピーー上手くいかないよ(チェーホフ)
- ・リアリズムー世の中と人間との葛藤の中で問題を解決できる
- ・舞台の中だけでは解決できないー独立した人間としてみんなと一緒に考えましょう
- ・どんなことをしても世の中不条理ー悲劇ではない。ああそうだよねと思わせる。「ゴドーを待ちながら」も暖かい

* 大事なことは、ビビッと感じるアンテナを持つことです。

日本の演劇の祖は、アメノウズメノミコトです。天岩戸を開くため踊りを踊った。つまり、始まりは願いを共有することだったのです。

演劇は、歌やダンスが訓練を必要とするのに対して。日常生きていることが訓練なので誰にでもできます*

文責:平井 新